

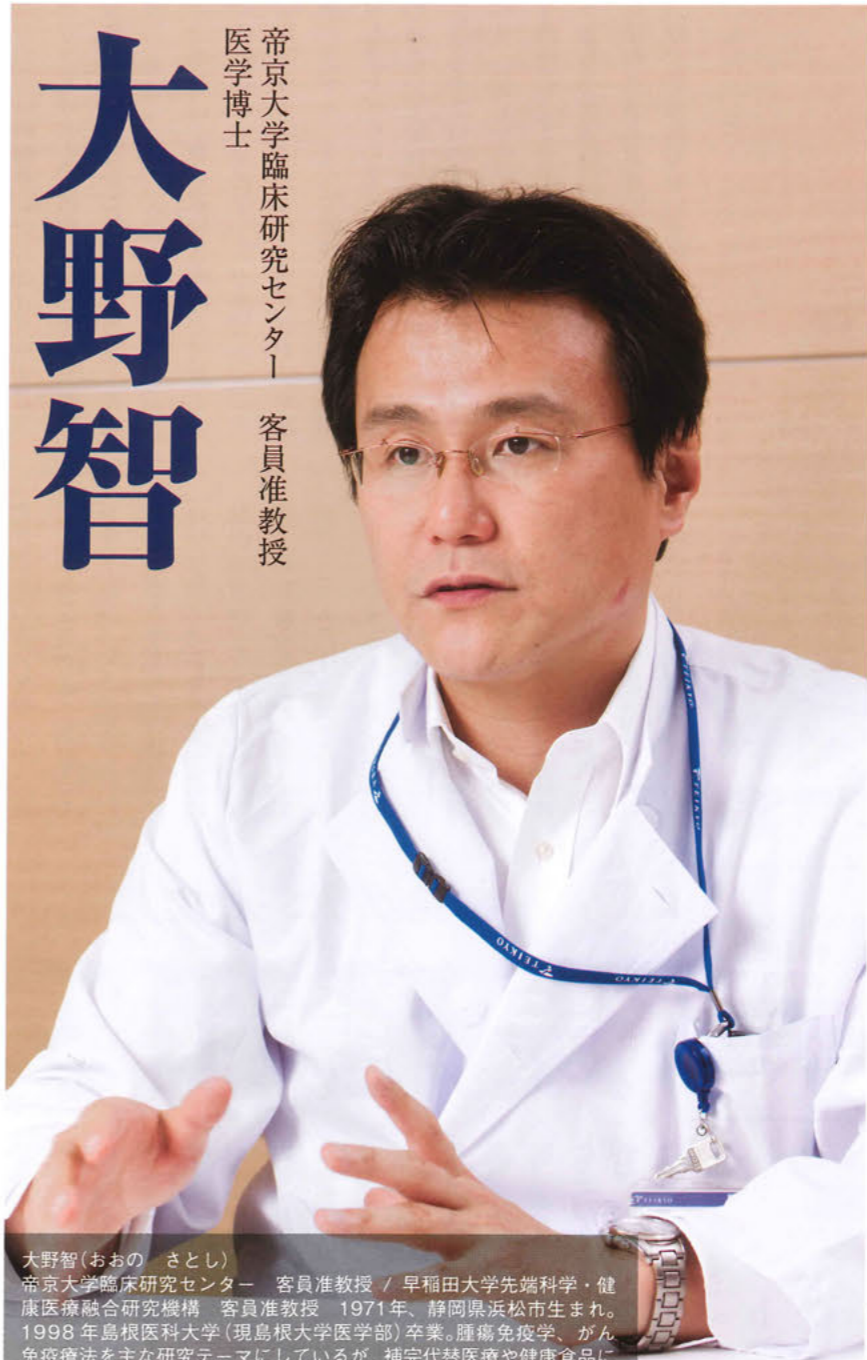
アガリクス茸はがん患者の生活の質(QOL)を改善

厚生労働省がん研究助成金を用いた

「がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」班において「がんの補完代替医療ガイドブック」の制作にかかわり、研究班として公的予算によるアガリクス茸製品を用いたヒト臨床試験の実施に携わった

帝京大学医学部の大野先生に

今回発表されたアガリクス茸に関する論文についてお聞きしました



帝京大学臨床研究センター 客員准教授
医学博士

大野智

大野智(おの さとし) 帝京大学臨床研究センター 客員准教授 / 早稲田大学先端科学・健康医療融合研究機構 客員准教授 1971年、静岡県浜松市生まれ。1998年鳥根医科大学(現鳥根大学医学部)卒業。腫瘍免疫学、がん免疫療法を主な研究テーマにしているが、補完代替医療や健康食品にも詳しく、「がんの代替医療ガイドブック」の作成を担当した。帝京大学緩和ケア内科、東京女子医科大学消化器外科などで癌患者の診療に当たっている。

ス茸に関しては、抗がん剤治療中の患者さんに本物と偽者を飲ませるランダム化比較試験が実施されており、安全に投与が行われ、NK細胞(ナチュラルキラー細胞)の活性化と抗がん剤の副作用を軽減したという研究結果がありました。また、アガリクスを飲用しているがん患者800名弱における生活の質(QOL)に関するアンケート調査も学術論文として発表されていて、有効性を示唆する結果となっていたので、さらに別の切り口で研究する必要があると思われました。そこで西洋医学でがんの標準治療がいったん終わっている人たちを対象とし、手術や抗がん剤治療などで体力など落ちてきている人たちがアガリクス茸を飲み続けることによってQOLが改善するかを研究することにしました。仙生露を毎日飲んでもらい飲用前と飲用6か月後にそれぞれQOLに関しての8項目の質問票を渡し、回答してもらいました。この質問票はこの

ようなQOLの評価をする際に世界的に使われているもので、大きく分けて身体的健康度、精神的健康度についていくつかの質問に答える形で評価してもらいます。なぜQOLの改善に関して研究をしたのですか?

QOLとはクオリティオブライフ、つまりその人が人間らしく生きられるかということや、何を尺度としてとらえる考え方は、現

在は、がん患者さんの治療に関して、さまざまな治療法があります。以前は一日でも長く生きる、つまり延命治療というものが重要とされ、その結果、副作用に苦しむ患者さんも少なくありませんでしたが、今は、治療効果、副作用、患者さんの価値観や意向なども含めて総合的に考えます。そこで治療方針の決定の中に患者さんのQOLというのは重要なファクターになるのです。どこかが痛い、眠れないということになればQOLは下がりますから、西洋医療の分野のみならず、それをさまざまなアプローチで緩和する必要があります。ですから、健康食品を含めた補完代替医療によってQOLが改善するかどうかということとはとても大事な研究テーマになると私は思っています。

研究の結果はいかがでしたか?

全体として8項目の質問のうち5項目において改善が認められました。さらに詳細に分析していくと、男性は主に身体的健康度の改善、女性は精神的健康度が改善したという結果が得られました。それから、高齢(66歳以上)の方は身体的健康度(身体機能・痛み)が改善、若年(65歳以下)の方は精神的健康度の改善がみられました。今後、アガリクス茸を飲まなかったときや、他の食品や医薬品と比較したときはどうなのかというデータ

を取らないと正確なことはわからないのですが、アガリクス茸はQOL改善に一定の効果があることが確認できました。さらに、こういった成分が有効なのは今後の研究によりますが予備的な研究として成果が得られたと考えています。

アガリクス茸によってQOLが改善されるのですね。

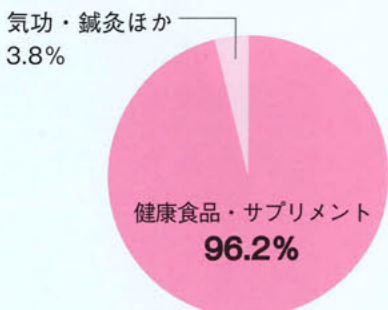
今回の研究ではそうになりました。ただ、ひとつ気を付けてほしいのは、アガリクス茸といっても産地、作り方、製造方法で全く異なります。お薬だと有効成分の化学構造式が決まっていますが、この会社で作ろうと変わりが無いという前提で作られています。これが「ジェネリック医薬品」ですね。ところがアガリクス茸など食品の場合は、栽培方法や生産地によって栄養も全く変わってくるし、製造方法などでも安全性、有効性が変わります。実際、アガリクスという商品名がついていても、アガリクスの菌糸体(キノコになる前の菌糸)のみを使っているメーカーと子実体(キノコ)を使っているメーカーがあったり、含有量も製品ごとにまちまちだったりすることが多いのです。同じ「アガリクス茸」といっても違うものとして考えてもらってもいいぐらいです。原材料や製造方法など品質管理を明示しているもの、問い合わせにきちんと答えてく

大野先生がアガリクス茸を研究しようと思ったきっかけは?

私は1998年に医学部を卒業し、消化器外科の研修医として病棟に勤務していたのですが、がん患者さんが何か健康食品を利用しているというのは感じていました。その後、2002年に金沢大学に移り、がんの補完代替医療(医療機関での治療のほかに民間療法などで補完する医療のこと)を研究するグループのメンバーとしてかわり、「がんの補完代替医療ガイドブック」を編集制作しました。ここには補完代替医療の実態調査が資料として載っています。が、おおよっぱにいつてがん患者さんの約2人に1人はなんらかの補完代替医療を利用しています。そして、いちばん多く利用されていたのが健康食品・サプリメント、その中で一番多く使われていたのがアガリクス茸で、約60パーセントの人が利用していました。あのとき病棟で飲んでいただいていたのがアガリクス茸だったのかと改めて思いながら、研究者としてきちんとした形で検証をしたいと思いました。また、これだけの人が使っているということは患者さんが何かしらの効果を感じているのではないかとという臨床医としての好奇心も湧き上がりました。

臨床研究のステップはまず、安全性を確かめ、次に有効性、更に、他の治療法と比較検討するという段階を経ます。アガリクス茸のものを使っていたかと思いません。私たちもデータや先行研究をあたって、今回の研究の際に仙生露を使用しました。信頼のおけるものをご自身で選んで使うことをお勧めしたいですね。

表A がん患者さんが利用する補完代替医療



出典:「厚生労働省がん研究助成金 がんの代替療法の科学的検証と臨床応用に関する研究」より

がん患者の95%以上の方が健康食品・サプリメントを利用しており、アガリクスの利用率は約60%と際立って高いのがわかる。

表B 健康食品・サプリメントの内訳

